

SOS子どもの村JAPAN

すべての子どもに愛ある家庭を。



SOS CHILDREN'S
VILLAGES
JAPAN

社会的養育のための 家庭養護推進と校区里親普及に向けて

SOS子どもの村JAPAN
橋本愛美



SOS子どもの村JAPAN活動の二つの柱

- ① 家族と暮らすことができない
子どもを“**家庭**”で育てること
- ② 地域で困難を抱えた家族を支援し、
“**家族**”の分離を防止すること

国連子どもの権利条約を柱に
(家族と暮らす子どもの権利)



2つの活動

虐待リスク

①親と暮すことができない子どもたち
⇒子どもの村(家庭での代替養育)



②地域で困難を抱えた家族
⇒子ども家庭支援センター
(相談事業
ショートステイ)



ふい

安全・安心

「虐待防止の校区里親開拓と家庭養護推進」事業

(福岡市)

多分野ネットワークによる
家庭養護の人材養成

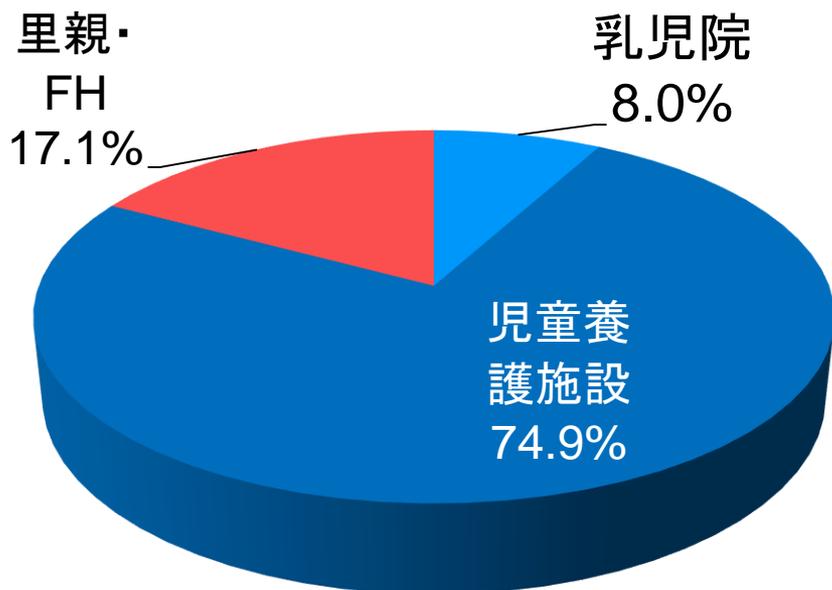
(福岡市)

虐待防止のための
「校区(短期)里親」普及

専門家によるプログラム開発

(宮城県) 家庭養護推進連携

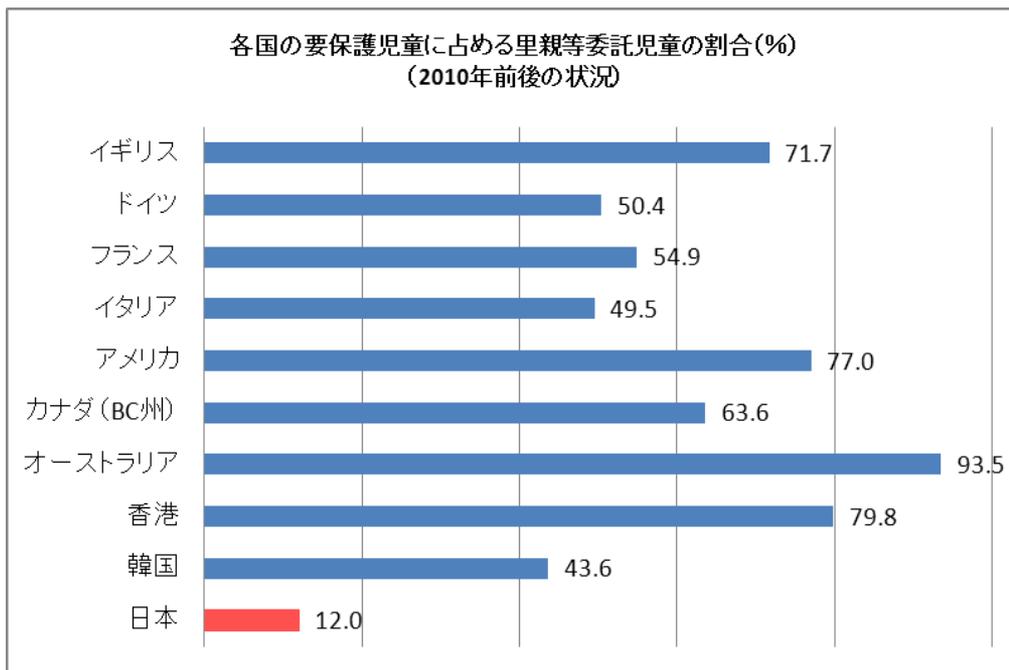
事業企画の背景①



2016年度福祉行政報告例

**里親の普及は、支援と両輪
でなければ
すすまない！**

- **施設養育**中心の日本
- **家庭養育**が世界のスタンダード



*「家庭外ケア児童数及び里親委託率等の国際比較研究」主任研究者 開原久代(平成23年度厚生労働科学研究「社会的養護における児童の特性別標準的パッケージ(被虐待児を養育する里親家庭の民間の支援機関の研究)」)

「虐待防止の校区里親開拓と、家庭養護推進」事業

(福岡市)

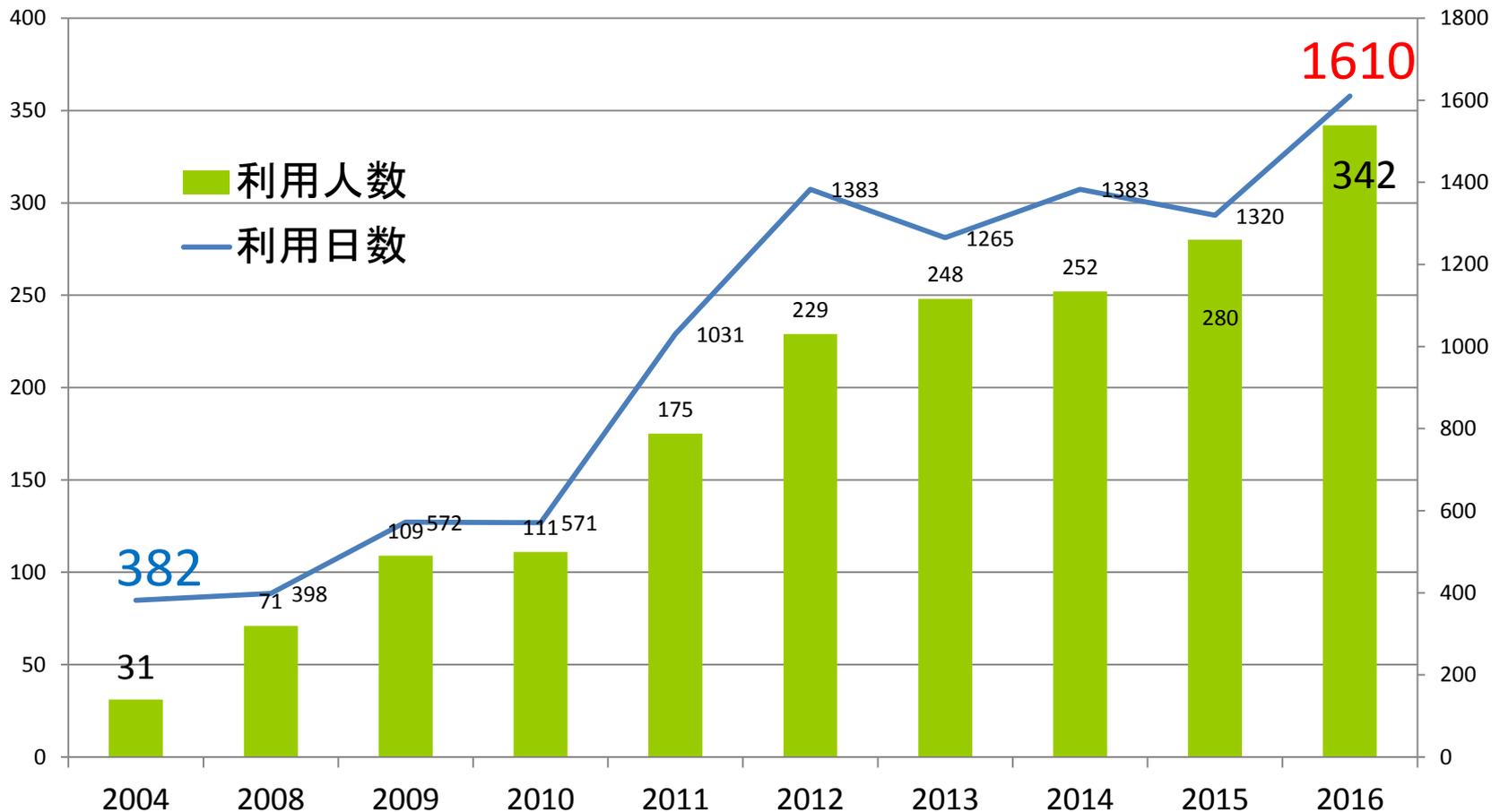
多分野ネットワークによる
家庭養護の人材養成



- 里親・ファミリーホームのための専門研修会
- 小児科医・精神科医・弁護士との共催研修会
- 里子のための遊びプログラム

事業企画の背景②

- 福岡市の「ショートステイ」利用家庭が急増
- 利用理由の半分以上が「育児疲れ」



「虐待防止の校区里親開拓と、家庭養護推進」事業



(福岡市)

虐待防止のための
「校区(短期)里親」普及

- 里親によるショートステイ・一時保護受入れの仕組みづくり
- 区役所・児童相談所とのネットワークづくり
- 里親啓発ワークショップ(区役所・市民対象)
- モデル校区でのミニフォーラム

専門家によるプログラム開発

●プログラム開発会議

全国的な課題の検討・人材養成の在り方検討

●専門委員会

大学研究者、全国里親会代表者等による事業評価

●子どもサポート部会

福岡市・東北それぞれの小児科医、精神科医、臨床心理士、社会福祉士、保健師などの専門家および、里親、子どもの村スタッフによるモデル事業の企画・運営

平成26年度社会福祉振興助成事業

「虐待防止の校区里親開拓と、家庭養護推進」事業

(宮城県) 家庭養護推進連携

- 福岡—東北ネットワーク会議
- もう一つの絆・子どもの村東北連絡会議



事業成果と地域への効果

家庭養護の 人材養成

- 研修の実施と研修手法の他地域での導入
- 里親支援ネットワーク
- 他団体との実務者連携
- 「当事者の声に学ぶ」意識の醸成
- 当事者団体との連携

校区里親 の普及

- 短期里親の区役所周辺での周知
- 短期里親普及ネットワークが拡大
- 地域全体で家族を支える意識の醸成

家庭養護 推進連携

- 児童相談所・子どもの村・里親会による連絡会
- 「子どもの村東北」の開村

事業のその後の展開

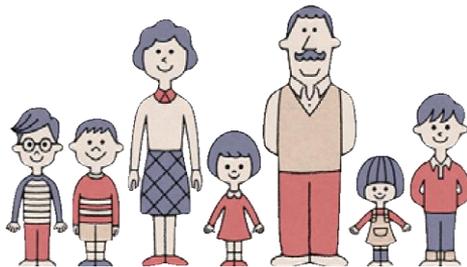
(福岡市)
虐待防止のための
「校区(短期)里親」普及

3年後・・・

みんなで
里親
project
ふくおかし西区

【連携先】

SOS子どもの村JAPAN
西区保健福祉センター
地域保健福祉課
子育て支援課
福岡市児童相談所
里親会



【連携先】

SOS子どもの村JAPAN
西区保健福祉センター
地域保健福祉課
子育て支援課
福岡市児童相談所
里親会

社会福祉協議会
地域振興課
地域支援課
生涯学習課
九州大学
今津自治協議会
西区民生委員児童委員協議会
主任児童委員会連絡会

事業のその後の展開

(福岡市)
虐待防止のための
「校区(短期)里親」普及

みんなで
里親
ふくおかし西区 *project*



2017年度

- 体制の強化 : 担当非常勤職員2名
- 里親ひろめ隊 : 87店舗・団体
- モデル校区7校区での展開
- 里親ショートステイハンドブック作成
- 2名の短期里親の確保
- 里親によるショートステイの試行

里親による
ショートステイが始動

里親が、地域の
家族支援の担い手に！

成果をあげるための工夫

ネットワークで取り組む

課題を
共有する

ビジョンを
共有する

役割を
明確にする

実際に行ったこと・・・

- 啓発研修/フォーラム
- ネットワーク会議
- 連携支援の実践
- 行政と市民との連携
- 情報共有の効率化

その結果・・・

- お互いの理解促進
- 様々なアイデア
- 顔の見える関係によるスムーズな連携
- しくみづくりへの提言

成果をあげるための工夫

当事者と取り組む

- ネットワーク会議への参加
- 研修会での講師
- 研修内容や支援のアイデアを出してもらう



実際に必要な支援が
わかる

当事者が
エンパワメントされる

事業計画立案のポイント

- 現状分析、課題抽出
- 既存制度・資源の状況整理
- 国や自治体のビジョン・法・制度改正との整合性
- 解決手法・活用資源の検討
- 専門家や当事者との協働
- 連携先（行政）との合意
- 中長期的なビジョン
- 体制の確保
- 助成金が取れなかった時の代替案

まとめ(成果をあげたポイント)

現状分析、課題分析を
きちんと行う

今、困っている子どもや家族を
中心に考える
(多くの協力を得ることができる)

目標と将来ビジョン
を持って始める

子どもと家族の問題を
社会全体の課題にする
(みんなで家族を支える地域づくり)

「行政のしくみ」になるこ
とをめざす

関係者連携を重視する
(ネットワークによる支援としくみの拡がり)

継続する

自分たちだけで抱え込まない
(関係者が次の課題・活動を見出していく・・・)



すべての子どもに愛ある家庭を。